







朝夷巡島記全傳第八編卷之二

東都

松亭金水編次

續輯第十三

一頭の野豬確執と釀を  
二歳の小犬隠川に漂ふ

そのまゝよりとめつ  
 當下義邦の吐息をきく。そのまゝ在下の心著ぬあふざり。小四郎はの初め  
 叔代相統の威勢へ自然吾小勝なり。吾箇討の権威をて。渠小放する  
 心のあふれと。朕ふ初とひ挂らば。まゝも人見も和せざるふ不可あらんといひ  
 と。然る女とて條々と。辞は渠も笑ひ見え。とてりて心あふぬの。義祐  
 して。時日とて定めらるべ。あふ方う。辞理ありて。今更ふ。改まを。とて。冥  
 罰と被ふて。適得なる。授子の。たゞ。あふ。枯る。天命あふ。是非の。は。と。  
 とも。生類と害ふ。と。佛の。誠め。あふ。と。と。禽獸蕃息する。則人倫。害す。



因に田獵とある所の武士の道なり。聖人の教なり。後て辞むと所為すもあらず  
と面答のへに筈の面をさす。心程あら善くぬきとひあらず。其の  
かくて其日ものづきねと宮小四郎弘義の重次秋弘が所の飾り。いと美く  
仕立て。奥忍戸上の若狗小紅の厚總。金覆輪の鞍。もと尾髪を磨き  
とてあつと晴きと牽せる。吉見の行者の入部のとき。在柄平太胤長より。惜し  
馬のて劣るべういふをきり。初てその日お至りけり。曉七ッ小勢おかし。をもの樹  
林と獵ふ。兎狸の類ひのこの邊山深く。わづかのこの獲物あり。ひひ  
日。おありけり。と傍の芝生不幕より。通て。準備する。刺おとす。或は小竹  
の酒と酌と。皆く息と休め。農民の吹さる竹。螺の音をきく。ひひ  
勇まかり。ト。重次秋弘は坐す。も。今。大。待。おぬ。在下。さ  
先陳。進。手柄。と。い。と。我。と。と。涌。り。出。の。馬。小。跨。り。と。暮。地。小

池。出。に。行。者。へ。え。来。せ。と。あ。の。符。あ。と。心。進。す。と。も。あ。と。あ。り。け。り。馬  
飼。標。吉。郎。は。青。春。と。い。ひ。折。ら。秋。弘。は。傍。若。无。人。の。舉。動。と。心。快。く。ま。ひ  
如何。と。類。ひ。る。獲。物。と。得。て。秋。弘。の。鼻。と。挫。き。と。い。ひ。の。と。後。て。も。ひ。ひ  
と。然。る。と。獸。も。出。ね。と。あ。と。と。ひ。て。な。り。今。秋。弘。が。池。と。と。と。と。来。と  
君。も。お。続。き。池。出。の。人。と。い。ひ。る。行。者。へ。荒。尔。と。笑。ひ。被。せ。と。お。り。の。汝  
ま。つ。け。吾。の。跡。より。出。ん。と。い。ふ。と。さ。う。い。ふ。先。仕。ん。免。れ。と。い。ひ。放。し。の。後。に  
小。家。達。り。後。に。と。と。と。諸。拍。あ。せ。池。若。ん。と。あ。せ。と。と。と。標。吉。が。遠。く。の。の。の  
借。馬。と。の。逸。物。と。競。べ。て。虎。と。羊。の。と。と。と。敢。て。近。く。と。と。と。協。い。は。は。と  
十。町。所。秋。弘。が。新。と。と。と。來。る。へ。か。の。所。お。獲。の。と。と。と。野。猪。二。頭。踏。ま。未。り。眼。は  
ら。し。牙。と。と。と。標。吉。と。馬。人。と。と。と。鬼。と。と。と。来。り。け。り。標。吉。は。い。ん。と。り。も。希。代  
僻。物。と。と。と。と。獲。物。あり。と。勿。地。と。と。と。矢。と。と。と。ち。番。ひ。度。矢。と。と。と。射。ま。し。と。と。と

















董次秋弘  
一刀小  
荒猪を  
刺留る











さう不候つたぬを冠者の馬とすこころの狗希代の逸物ありき。何方よりう  
来りけむ。うたのて得たり。と心程不飲びて猶傍ちくく重う。この日こそ並  
松の冠者不徒ひて来り。初て雲下並松の冠者馳ける馬不副て後まのせり  
来ると冠者の折顧を並松よ後する。声けり。道筋不溝川  
を隠川と唱る。うたの幅ありて三丈なり。山川のまの瀬に浅くして漲る水に  
淹れぬ。彼安内不来り者。列を少く辱せ。その川より入る。經る  
歩の流るるを冠者の馬と颯と入る。向ひの岸へ著てうる。不並松の流るる  
彼方此方と汚湛。うまの彼方著てうる。水と身と抱入る。四足と足掻てその  
川の半より来り。うたの浪不流る。候きり。歩ると懐いた。冠者の  
睨て馬牽向け。並松とくと呼び。此方よりうる。水勢の烈く。えん来不  
狗の力もは。川下の方へ推流する。新人們は是とて。安慚や狗が流る。を支扶

けよ。夢と揚四五個。栗下立ぬ。その間不並松の。七八回推流する  
ま。今へ大に遠ざり。逐著人と難く。とて空を岸の上。こみ  
吉見の冠者の馬上。伸より。遙より。不並松の浮ぬ。沈ぬ。漂ひ。岸を  
不生の梢不隠。とて。その影をうる。義邦太。嘆息。凡て。牛馬  
六畜。水不介。と溺る。とて。天怪水。殊と濁る。とて。さ。心。安。思ひ。水  
勢。殊。不烈。とて。か。迷。不推流。とて。此方と。うる。失。這。小。狗。の。故。を。  
渠。の。尋。常。の。狗。と。遠。ひ。人。流。と。う。候。ひ。吾。傍。と。難。と。ぬ。と。影。の。不。副。  
と。然。と。今。か。と。う。の。い。さ。川。を。失。る。の。遺。憾。と。あ。る。り。と。又。迷。不推流。  
つ。る。も。潮。と。死。す。と。あ。る。と。不。来。る。の。後。方。と。索。ね。て。う。る。と。安。内。せ。難。會。  
と。近。づ。け。て。汝。等。の。被。知。の。と。宮。氏。父。子。も。標。吉。の。在。け。る。と。池。の。う。る。と。  
並松が。此方と。う。ん。と。吾。の。川。下。の方。へ。は。ぬ。と。安。否。と。わ。る。速。不来。る。と。



さき在下と候とあへ心任せ付せしより、夜に他人へ、ひの池で、人々、  
人々を畏れ、又、但、その、二、兩個、あつて、まじり、せん、我、我、の、相、を、傳、副、に、何、方、ま、を、  
は、供、せん、と、う、得、地、頭、と、ま、を、又、分、ま、を、三、日、後、あ、著、て、近、来、る、府、有、の、件、の、川、端、  
と、役、と、脱、お、十、町、餘、で、然、る、ふ、の、川、副、の、棘、枳、穀、り、ま、を、上、ふ、生、茂、り、て、路、も、あ、  
ら、ず、馬、の、足、ま、を、ま、を、ま、を、右、手、へ、廻、ま、を、む、じ、洪、水、ま、を、の、道、押、堀、  
と、あ、り、と、ひ、を、大、あ、る、池、ま、を、の、故、あ、り、と、右、手、へ、避、ま、を、ま、を、と、教、十、町、と、ま、を、  
彼、川、と、の、同、途、へ、隔、て、傍、ま、を、ま、を、樹、木、茂、り、薄、高、茅、路、と、ま、を、ま、を、ま、を、  
あ、り、け、ま、を、忽、地、ま、を、と、失、ま、を、ひ、つ、後、方、ま、を、ま、を、雅、人、們、馬、あ、り、と、將、続、を、繼、  
遠、方、ま、を、ま、を、の、と、義、邦、心、ま、を、ま、を、並、松、が、先、途、ま、を、ま、を、と、案、内、も、ま、を、ま、を、  
来、つ、ま、を、ま、を、の、思、と、頼、ま、を、何、の、の、所、へ、ま、を、ま、を、ま、を、の、岡、輒、と、頼、ま、を、か、ん、と、馬、林、注、  
め、と、樹、林、の、裡、と、寂、ま、を、い、と、ま、を、星、ま、を、天、の、夕、陽、沉、ま、を、と、ま、を、ま、を、更、ま、を、の、善、意、と、

あ、ず、困、ど、果、ま、を、の、折、り、旋、風、暴、ま、を、雨、来、て、雨、ま、を、後、と、東、松、の、突、か、か、く、  
不、降、ま、を、の、冠、者、の、天、と、作、ま、を、ま、を、と、這、の、怪、ま、を、ぬ、虎、ま、を、あ、り、ま、を、今日、の、日、和、の、貴、  
東、ま、を、の、思、ひ、ま、を、ま、を、の、鈴、ま、を、荒、ん、と、の、思、ひ、ま、を、ま、を、の、諸、も、便、ま、を、あ、り、ま、を、と、嘆、ま、  
あ、ず、傍、ま、を、の、松、の、木、ま、を、深、ま、を、ま、を、傍、て、凌、ま、を、ま、を、ま、を、と、風、烈、ま、を、あ、り、と、渾、才、ま、を、ま、を、  
水、渌、ま、を、ま、を、と、注、方、ま、を、折、り、の、件、の、雅、人、ま、を、ま、を、ま、を、と、池、若、と、冠、者、の、馬、の、傍、ま、  
ま、を、傍、り、思、ひ、ま、を、か、け、ぬ、の、雨、風、辛、ま、を、目、ま、を、ま、を、ま、を、と、何、れ、ま、を、ま、を、と、小、候、ま、を、  
あ、ず、ま、を、止、せ、と、申、ま、を、ま、を、の、池、飯、り、ま、を、ま、を、ま、を、と、大、雨、ま、を、と、隠、川、の、水、  
嵩、増、ま、を、帰、路、と、ま、を、あ、り、の、川、の、法、方、ま、を、水、の、聚、ま、を、ま、を、と、昔、巾、あ、り、ま、を、  
深、ま、を、ま、を、と、大、雨、不、遭、ま、を、ま、を、の、同、小、馬、の、脊、り、ま、を、ま、を、と、小、候、ま、を、  
憐、ま、を、ま、を、と、心、細、ま、を、と、在、ま、を、ま、を、と、ま、を、と、冠、者、の、大、天、ま、を、  
元、来、者、人、悟、ま、を、と、更、小、真、愛、ま、を、と、ま、を、い、ね、ど、汝、の、吾、不、從、ひ、ま、を、と、あ、れ、苦、難、不、遭、ま、



こも諸隠川水増て渡り難き幸りあるべし何もの方小路ある。夫等ハ漏れ  
らる。郷道するべし。懐念先か川ふもさる。虎馬の鼻を引け。服  
とす。雨風ふく。烈々吹来り。面を向く。さる。あふ。太木の根  
小轉て二條の路の彼方横り。難き。あふ。人。二足も進  
得。右左す。回。日。暮。七十歩の外。あふ。さる。義邦も。  
心裡穩。あふ。今。あふ。彼。帰。あふ。暮。果。あふ。別。あふ。その。あふ。  
らぬ。荒川。あふ。渡。あふ。還。あふ。武。あふ。あふ。あふ。あふ。  
伏。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
明。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
今。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
方。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。

ふ。便。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
類。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
濡。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
燃。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。

續輯第十四

幻術と現ハ山神の祠  
危難と救ふ夢法師

當下義邦侍とる。僅十段。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
ひ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
と。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
們。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。  
計。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。



の邦

隠川の  
上  
義邦  
風雨  
逢ふ



乾けど。撥て面を點滴より。他は洗へきものなり。今のわろく。窮果て。雜人們も  
始めこそあまき。今の物さなりものあり。寂寥きく。雨風のまものと列はく。まき。か  
折る。社壇の方。物の音くまき。冠者のう。向き。を。祝ふ。頭の。朱。舊  
狢猴のや。首。黄金の。璽。珞。つ。ける。唐冠。め。さ。さ。う。ち。被。り。ゆ。小。條。の。後  
越。て。持。ち。衣。服。の。唐。め。き。て。然。る。そ。の。容。別。さ。れ。が。何。方。より。う。現。は。さ。来。て  
上。坐。お。ち。あ。り。ま。さ。い。繞。さ。て。こ。ま。る。り。の。熊。の。臥。あ。て。人。才。さ。る。あ。り。も。こ。虎。の  
頭。豹。の。頭。或。ひ。は。松。の。頭。も。あ。り。え。各。衣。服。の。世。間。ふ。ん。創。ま。さ。る。り。の。い。ま。者。  
狢。猴。の。左。右。お。坐。と。下。ま。さ。い。そ。の。徒。者。ご。も。と。そ。う。さ。が。面。相。異。形。の。出。立。ま。さ。る。  
幾。千。と。さ。く。下。坐。お。居。る。更。お。教。ふ。体。と。あ。す。元。来。社。壇。お。燈。火。あ。く。照。入。も  
ふ。さ。る。ぬ。勝。あ。れ。ど。渠。等。が。形。の。異。さ。と。月。中。お。ま。さ。り。く。ふ。ん。の。義。邦。心。お。討。り  
て。ん。と。深。山。幽。谷。の。種。の。変。化。あ。り。て。人。お。害。と。あ。す。と。ゆ。い。ど。こ。の。變。を。お





















義邦難を  
通る  
夢庵子  
會ふ













